

【議会報告会】

○ J R 四日市駅周辺の渋滞踏切について、貨物列車の入れ替え作業等の事情があることは理解するが、近鉄線と比較しても踏切の遮断時間が長く、工夫次第で時間短縮は可能であると考えているため、J R 東海と協議を行うべきである。

⇒議員 市はこれまでも何度か J R 東海と協議を重ねているが、J R からは、貨物列車が走っている影響から安全対策のために踏切を遮断せざるを得ないと聞いているとのことであり、協議が進んでいない状況にある。

⇒議員 そうした意見があったということを執行部に伝えたい。

○ 四日市市クリーンセンターの稼働により埋立処分量が著しく減少し、南部埋立処分場の業務量が大幅に減少することから、埋立処分場の管理業務を委託へ切り替えて実施することであるが、埋立処分場の来年度の配置人員は現在の約 5 分の 1 である 3 人となるにも関わらず、費用面では約 9200 万円から約 2800 万円にしか減っておらず、少し費用が高いように感じるが、これはどのような理由からか。

⇒議員 人件費以外に、廃棄物搬入管理業務のほか、整地覆土業務や施設維持管理業務など、埋立処分場全般の管理を委託するための予算となっている。

○ 上下水道局が行うコピー機のリース契約については、市内業者を優先的に選定すべきであるとする。まず、入札業者が何社あったのか教えてほしい。加えて、市内の歩道や市道について、でこぼこしている箇所が多く、迅速に対応できるよう、例えば、道路の施工業者によるアフターフォローを仕様書に組み込むなどの工夫が必要であるとする。

⇒議員 コピー機のリース契約に係る入札はこれから行われるため、現時点で入札業者数は分かっていない。

⇒議員 ご意見を執行部に伝えさせていただく。

○ 内部・八王子線運行事業について、配付資料に消費税相当額が当初予算に計上されてい

なかったことについて議論が行われた旨の記載があるが、議会報告会の資料作成に当たっては、執行部や議会側の発言者を明記すべきであるとする。

⇒議員 内部・八王子線運行事業の当初予算に消費税相当額が計上されていなかったことに対する指摘は議員から出されたものであり、これに関する執行部の答弁はないためご理解をいただきたい。

⇒議員 委員会として議会報告会の資料を作成しているため、一個人ではなく、委員会としての意見と捉えていただければと考えている。議員によって個々の考え方があり、委員会ではさまざまな観点から議論を行っているため、個々の議員名を出して資料を作成するとなれば、今以上に詳細な報告を行う必要があると考えるが、議会報告会の時間は限られているため、現在の手法が望ましいと考えている。

○笹川地区内の4車線ある道路の両端に工事跡があり、舗装の継ぎ目に段差があるため通行しにくい状態となっている。水道管の工事などは必要であるため仕方ないが、施工後の復旧作業を適正に実施していただくようお願いしたい。また、同地区内の街路樹について、枝葉を切りすぎて枯れてしまっている樹木もあるため、適正な管理を行っていただくよう併せてお願いしたい。加えて、先ほど、内部・八王子線運行事業の当初予算に消費税相当額が計上されていなかったと説明があったが、それによる市の負担はどの程度ふえるのか。

⇒議員 笹川地区内の道路と街路樹については、ご意見を執行部に伝えたい。

⇒議員 消費税相当額4500万円について、本来であれば国に補助してもらえる2250万円を含めて、全額を市で負担する必要性が生じたが、その後、執行部において負担を減らすべく国や県と交渉を行い、事業の組み換えなどによって、結果的に市費の持ち出しは千数百万円となったとの説明を受けている。

○あすなろう鉄道について、沿線の学校や企業に対してもっと利用を呼びかけるべきであると考えており、そうした提案を積極的に行っていただきたい。

⇒議員 議会としてもそうした観点から指摘を行っているが、あすなろう鉄道になってから特に通学定期の利用者数が減少しているという実態もあるため、今後、市や市民、

議会の3者が、より利用促進に係る議論を進めていけるよう努めたい。

【シティ・ミーティング】

○新総合ごみ処理施設は、三重県環境保全事業団が運転を停止した廃棄物処理センターと同じガス化溶融炉を採用しているとのことであるが、不安はないのか。

⇒議員 廃棄物処理センターはガス化溶融炉の中でもキルン式を採用していたが、現在、建設中の新総合ごみ処理施設はシャフト式を採用している。シャフト式は全国でも主流の方式であるため、実績のある方式と考えている。

○市はエコステーションをもっとふやしていくべきであり、必要な補助や広報等の支援を行うべきであると考えている。また、関連して、今年度に資源集団回収助成金交付要綱が改正され、業者が各戸を戸別収集するような集団回収が助成対象から除外されたが、私の地域ではそうした集団回収で得られた助成金を活用して子供会の会費を免除しており、助成金がなくなることを残念に感じている。こうした健全な取り組みを阻害することのないよう、個々の事例を見て助成の判断をしてほしい。

⇒議員 当該制度は本来、住民団体が自主的に資源物の集団回収を行っていただくという趣旨でスタートしたものであるが、業者による戸別収集や事業系のごみが混ざって回収されているなど、本来の趣旨にそぐわない実態が散見されたことから、見直しが必要となったものであり、本来の趣旨に沿うように制度を改正したということなので、ご理解いただきたいと考えている。

○下記6点について、回答は不要であるが、できる限りの対応をお願いしたい。①ごみ処理基本計画の概要版に新総合ごみ処理施設の処理能力が336t/日であるとの記載があるが、現在稼働している北部清掃工場の処理能力も併せて記載すべきである。②放置自転車については、管理費用がかかるため、学生などへの譲渡も含めて検討を行うべきである。③市では印刷物が大量に出るため、印刷用紙の資源化の徹底をお願いしたい。④中心市街地に飲食店がふえており、活気があるのはいいが、ごみの管理やカラスの糞など衛生面で課題があるため、改善に努めてほしい。⑤中心市街地の公園のトイレに鏡を

設置すべきである。⑥市議会と社会福祉協議会の共催で商店街におけるフリーマーケットを月1回のペースで開催するよう検討してほしい。

○現在、傘は分解してごみ置き場に出さなければならないが、来年度からは破砕ごみとしてそのまま出せるのか。また、そうした収集方法の変更に伴う周知はどのように行っているのか。

⇒議員 来年度以降、傘は破砕ごみとなり、そのままごみ置き場に出せるようになる。そうした収集方法の変更に伴う説明は自治会長会議を初め、依頼のあった単位自治会に対して行っているところである。

○ごみ処理基本計画の概要版には、事業者の役割として「イベントにおけるリユース食器の使用」をあげているが、自治会や地区の社会福祉協議会にそうした考え方がまだまだ浸透していないと感じているため、周知に努めるべきである。

⇒議員 そうした意見があったということを執行部に伝えたい。

○市が予測する温室効果ガス排出量は平成27年度から平成32年度にかけて大幅にふえており、その後も微減の状態が続くとあるが、高い削減目標を掲げている国の施策と相反しないのか。

⇒議員 この数値でよいとは考えておらず、より温室効果ガス排出量を削減できるよう努めていくことが必要であると考えている。

⇒議員 数値としてはゼロを目指していくべきであると考えているが、現実的にごみは出るため、どのようなスパンでどう処理していくのかが問題であると考えている。現在、南部埋立処分場の残容量は逼迫しており、長寿命化を図っていく必要があったことや、施設の建設費用の原資が税金であることなどを総合的に勘案して、新総合ごみ処理施設の建設を判断したものであり、より環境負荷の少ないという観点ではベストではないものの、行政の判断が誤っていたとは言えないと考えている。

○温室効果ガスの排出量の増加は溶融処理に伴うコークスの投入が原因とのことであるが、より環境負荷の少ない資材の活用は検討しないのか。

⇒議員 新総合ごみ処理施設整備・運営事業は総合評価一般競争入札方式により実施されており、資材の選定を含め、事業者におけるパッケージの提案となっているものと把握している。

○私の地域では段ボールコンポストが浸透しており、市が課題として挙げている生ごみの水分量を大幅に減らすことができると考えるため、そうした取り組みを市全域に広められるよう努めるべきである。

⇒議員 そうした視点は重要であると考えているため、執行部に意見を伝えたい。

○四日市公害の原点ともいえる塩浜地区の街路樹について、見通しが悪いとの観点から、現在、伐採が進められている。この街路樹は県道沿いにあるため、市職員に相談しても対応してもらえないのが現状であるが、そうした歴史的価値のあるものは残していくべきであると考えており、何とか残せないのか検討してほしい。

○緑化推進の観点からも市の施策と相反するものであり、街路樹の伐採によって見通しが良くなれば交通量もふえるため、かえって子供の通学路にはふさわしくないと訴えてきたが、聞き入れてもらえなかった。価値のある歴史的な街路樹がこのような形で全て伐採されることは遺憾であり、市民の中にはこうした意見があるということも知っておいてほしい。

⇒議員 塩浜小学校と三浜小学校の統合時の合意事項であり、地元から出された通学路の安全対策に関する要望に基づき市は県に対して伐採を依頼しているものと把握している。

⇒議員 街路樹の全てが伐採されるという認識はなかったが、こうした課題は塩浜地区の街路樹だけではなく、環境に対する行政や企業のあり方、そして市民一人一人のあり方という課題につながるものであると考えている。